

## 修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院 情報理工学 研究科 総合情報学専攻 博士前期課程		
氏 名	田邊 元	学籍番号	1030060
論 文 題 目	無形文化財に現れる身体動作の保存に必要な記録に関する研究 -古武術伝承の変化を事例として-		
<p>要 旨</p> <p>無形文化の保存において、現在は映像記録を作成することが主流となっている。しかし、それらの保存映像は、実際の無形文化の伝承が持つ背景や環境などを考慮せず、形のみを記録する映像となっていると考える。</p> <p>本論文では、無形文化伝承の保存の有効策を考察するために、基礎となる情報を収集し、映像記録作成の際に発生する問題の存在を捉えることを目的とする。本論文では研究対象となる無形文化を古武術とし、武術伝承に関わる「変化」の実例の収集と、無形文化の保存記録を視聴する側が、どのような意識を持って視聴しているかについて調査実験をし、その特性を分析した。</p> <p>武術伝承に関わる「変化」の実例を収集は、古武術の伝承の変化が、実際の伝承現場でどのように現れるかを実地の参与観察を通して分析した。調査対象の 2 つの無形文化は、ある時から分化し、現在ではそれぞれ、古武術と民俗芸能として伝承される武術（＝芸能武術）となっている。これらの伝承内容を比較することで変化の実態を捉えた。調査実験では、著者が準備した武術と芸能武術についての動画を被験者に提示し、両者を識別する質問に対する判断基準を記述してもらい、分析した。これにより、視聴時に人々が意識的、もしくは無意識的に行う判断において、ある種の先入観が存在することを明らかにし、制作者側の意図と一致しているか否かを検証した。</p> <p>古武術と芸能武術に見られる伝承の変化の特徴としては、動作の簡略化と娯楽性の付加が行われていた。一方、実験結果から、武術経験者と未経験者で判断基準が違う傾向が判明した。経験者は武術の動作を構成している武術的な要素を用いて判断を行っていたが、それぞれが個々に重視する要素は違っていた。一方、未経験者の場合は実技経験がないため、自分が持つ武術のイメージと動画の比較を行うことにより判断をしていると考えられる。このことから、視聴者によって無形文化の記録映像には動作の背景や意味といった情報を選択して付加することが不可欠であると考ええる。</p>			